

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2016年第31週
(8月1日～8月7日)

- * 2016年8月10日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「デング熱の環境対策」も掲載しています。

平成28(2016)年8月12日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2016年31週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		28週	29週	30週	31週	年累計	31週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	98	63	80	52	2,201	355	14,194
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢		1		1	23	4	77
	腸管出血性大腸菌感染症	15	14	15	11	197	145	1,467
	腸チフス				1	15	1	30
	パラチフス					5		9
四類	E型肝炎	1				28	4	252
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2			3	52	6	202
	エキノコックス症							12
	黄熱							
	オウム病					1		4
	オムスク出血熱							
	回帰熱						1	5
	キャサナル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					2		2
	サル痘							
	ジカウイルス感染症 ^{*4}							7
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*5}						2	38
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					3	1	5
つつが虫病						2	88	
デング熱	4	1	3		51	7	196	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 2016年2月15日より新たに追加指定された。

*5 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		28週	29週	30週	31週	年累計	31週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						2	104
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症				1	1	1	1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症					1		2
	マラリア	1		3		11	1	31
	野兎病							
	ライム病						1	4
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症	1		7	2	69	24	814	
レプトスピラ症				1	1	1	8	
ロッキー山紅斑熱								

2016/8/10集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 52件 患者33件(肺結核 26件、その他の結核 6件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 17件、疑似症 2件、年齢は10歳未満 1件、20代 8件、30代 2件、40代 8件、50代 5件、60代 6件、70代 12件、80代 10件、推定感染地は国内 49件、ベトナム 1件、ミャンマー 1件、中国 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、菌種フレキシネル、年齢は50代、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

腸管出血性大腸菌感染症 11件 患者 9件、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO26 VT1 3件、O157 VT1・VT2 5件、O157 VT2 2件、O157 VT型不明 1件、年齢は10歳未満 2件、10代 3件、20代 2件、30代 1件、50代 1件、60代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 11件、推定感染経路は経口感染 6件、接触感染 1件、不明 4件であった。

腸チフス 1件 患者、年齢は20代、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 3件 患者 3件、年齢は40代 2件、50代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は経口感染 2件、不明 1件であった。

ブルセラ症 1件 患者、年齢は60代、推定感染地はタンザニア、推定感染経路は不明であった。

レジオネラ症 2件 病型は肺炎型 2件、年齢は70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件であった。

レプトスピラ症 1件 患者、年齢は30代、推定感染地はタイ、推定感染経路は水系感染であった。

※ 第26週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第30週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件、〔四類〕デング熱 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2016年31週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		28週	29週	30週	31週	年累計	31週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	4	3	3	4	138	16	688
	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	3		2	3	42	2	153
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	4	1	5	106	21	822
	急性脳炎 *1	3		3	1	67	6	516
	クリプトスポリジウム症							6
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		11	2	101
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	2	1	2	42	3	317
	後天性免疫不全症候群	5	10	10	13	285	20	842
	ジアルジア症	1		1	1	11	1	40
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	5	2	1	31	1	205
	侵襲性髄膜炎菌感染症					3		28
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	2	7	6	235	27	1,735
	水痘(入院例に限る)		1	1	1	34	1	182
	先天性風しん症候群							
	梅毒	28	33	41	39	1,006	60	2,509
	播種性クリプトコックス症		1			10	1	75
	破傷風					3	1	70
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							30
風しん					12		91	
麻しん					4	1	17	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1		23	
2016/8/10集計								

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 病型は腸管 3件、腸管及び腸管外 1件、年齢は40代 3件、50代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は性的接触 3件(同性間 2件、異性間 1件)、不明 1件であった。

ウイルス性肝炎 3件 B型 3件、年齢は20代 1件、30代 2件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は性的接触 2件(同性間 1件、異性間 1件)、不明 1件、B型肝炎ワクチン接種歴は無し 2件、不明 1件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 5件 患者 5件、病原菌はエンテロバクター・クロアカ 2件、エンテロバクター属菌 1件、クレブシエラ・ニューモニエ 2件、年齢は5歳未満 1件、50代 1件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、不明 3件、90日以内の海外渡航歴は無し 5件であった。

急性脳炎 1件 病原体は単純ヘルペスウイルス、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 2件 血清群はB群 1件、G群 1件、年齢は60代 1件、70代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は不明 2件であった。

後天性免疫不全症候群 13件 AIDS 3件、無症候キャリア 7件、その他 3件、AIDS患者の年齢は30代 1件、40代 2件、無症候キャリア及びその他の年齢は10代 1件、20代 3件、30代 1件、40代 2件、50代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 13件、推定感染経路は性的接触 11件(同性間 9件、異性間 1件、両性間 1件)、不明 2件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は40代、推定感染地はコンゴ民主共和国、推定感染経路は経口感染であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、ヒブワクチン接種歴は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 6件 血清型は検査未実施 6件、年齢は10代 1件、50代 2件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 5件、中国 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1件、不明 3件、肺炎球菌ワクチン接種歴は無し 5件、不明 1件であった。60代のうち1件は死亡が確認された。

水痘(入院例) 1件 臨床診断例、年齢は10歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、水痘ワクチン接種歴は2回接種済みであった。

梅毒 39件 患者32件(早期顕症梅毒Ⅰ期 13件、早期顕症梅毒Ⅱ期 16件、晩期顕症梅毒 3件)、無症候梅毒 7件、年齢は10代 1件、20代 16件、30代 10件、40代 5件、50代 4件、70代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 37件、中国 2件、推定感染経路は性的接触 38件(同性間 11件、異性間 22件、性別不明 5件)、不明 1件であった。

※ 第28週で報告のあった〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件は削除された。

※ 第30週該当分として〔五類〕後天性免疫不全症候群 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2016年31週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2016年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		28週	29週	30週	31週		
小児科	RSウイルス感染症	36 0.14	42 0.16	66 0.25	93 0.36	258	264
	咽頭結膜熱	183 0.71	101 0.39	141 0.54	78 0.30		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	789 3.05	540 2.06	512 1.97	423 1.64		
	感染性胃腸炎	1,390 5.37	1,045 3.99	1,197 4.60	1,139 4.41		
	水痘	79 0.31	105 0.40	84 0.32	86 0.33		
	手足口病	238 0.92	230 0.88	225 0.87	261 1.01		
	伝染性紅斑	46 0.18	39 0.15	39 0.15	48 0.19		
	突発性発しん	167 0.64	132 0.50	134 0.52	145 0.56		
	百日咳	4 0.02	4 0.02	6 0.02	7 0.03		
	ヘルパンギーナ	1,526 5.89	1,305 4.98	1,599 6.15	1,352 5.24		
	流行性耳下腺炎	208 0.80	216 0.82	260 1.00	235 0.91		
	川崎病 *1	8 0.03	7 0.03	4 0.02	3 0.01		
	不明発しん症 *1	30 0.12	35 0.13	25 0.10	29 0.11		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	9 0.02	4 0.01	5 0.01		
眼科	急性出血性結膜炎	1 0.03				39	39
	流行性角結膜炎	33 0.87	37 0.95	39 1.00	21 0.54		
基幹	細菌性髄膜炎 *3	2 0.08		2 0.08	2 0.08	25	25
	無菌性髄膜炎	2 0.08	2 0.08	1 0.04	2 0.08		
	マイコプラズマ肺炎	26 1.04	16 0.64	22 0.88	23 0.92		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)			2 0.08			
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス) *4						
	インフルエンザ入院	1 0.04					
2016/8/10集計							

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は前週よりも減少したが、依然、東京都の警報基準を超えている。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2016年31週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	8	1		19	3	3		2		9	
6～11か月	21	5	7	94	3	42		47		125	
1歳	51	13	22	195	6	91	1	72		427	13
2歳	9	9	44	119	4	55	2	16		320	8
3歳	3	8	46	100	9	22	3	6		192	11
4歳		13	47	99	11	19	14		1	109	21
5歳		11	60	91	15	12	12	2		85	35
6歳		4	48	55	6	7	6			30	30
7歳		5	36	55	13	4	3		1	14	34
8歳	1	3	16	48	5	1	3		1	13	27
9歳		2	19	27	2	1	3			8	20
10～14歳		3	39	105	7	1	1		2	10	24
15～19歳			4	21	1					1	3
20～29歳		1	35	111	1	3			2	9	9
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	93	78	423	1,139	86	261	48	145	7	1,352	235
先週比	27	-63	-89	-58	2	36	9	11	1	-247	-25

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月						1					
6～11か月		7									
1歳	2	7	1								
2歳		6			2			3			
3歳		2						1			
4歳		2									
5歳		2						2			
6歳			1		1			1			
7歳		1			1			6			
8歳		1									
9歳								1			
10～14歳	1	1			1	1		6			
15～19歳								2			
20～29歳			1		1			1			
30～39歳					9						
40～49歳					2		2				
50～59歳			1		1						
60～69歳			1		2						
70～79歳					1						
80歳以上											
合計	3	29	5		21	2	2	23			
先週比	-1	4			-18		1	1	-2		

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2016年31週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				0.67		1.00				0.67	
中央区				3.33		3.33		1.00		5.67	0.33
みなと	0.50	1.50	0.17	3.50		0.33	0.17	1.00	0.17	3.33	1.67
新宿区	1.38	0.38	2.50	3.50	0.25			0.13		3.88	
文京	0.75	0.25	1.50	2.00	0.25	1.00	0.75			3.25	1.00
台東	0.50		2.25	5.00		5.25	0.25	1.00		5.50	2.75
墨田区		0.40	0.80	2.00		0.20				5.00	1.60
江東区	0.33	0.56	1.78	13.22		0.89		1.00	0.11	4.33	0.89
品川区	0.25	0.13	0.75	5.88	0.25	0.13		0.38		2.25	0.50
目黒区	1.25	0.25	3.25	8.75		1.75	0.25	1.25		3.50	0.75
大田区	1.17	0.58	2.33	5.33	0.17	1.33	1.00	0.83		7.67	1.58
世田谷	0.60	0.13	3.13	4.73	0.20	0.93	0.33	0.27		4.87	0.73
渋谷区			0.25	2.25		0.25		0.25		0.75	0.25
中野区	0.50	0.17	1.00	10.00	2.33	1.33	0.50	0.67		11.67	0.83
杉並	0.09		1.09	2.82	0.73	0.18	0.36	0.55		1.82	
池袋	2.50		0.75	1.50		0.50	0.25	0.25		3.25	
北区	0.29			3.86		1.14		0.43		4.71	0.29
荒川区	1.25	0.75	0.50	4.25	1.50	1.25		0.25	0.25	10.50	0.25
板橋区	0.10		0.70	1.60	0.20	1.10		0.80	0.10	2.60	0.80
練馬区		0.42	3.92	3.67	0.33	0.58	0.25	0.42		6.00	0.75
足立	0.38	0.38	1.08	4.23	0.15	1.00	0.31	0.62		5.62	0.46
葛飾区	0.13		0.63	5.38	0.63	0.75	0.13	1.00		5.38	1.38
江戸川	0.08	0.58	1.83	6.50	0.25	0.83	0.08	0.67		8.00	0.33
八王子市	0.18	0.36	1.18	7.82	0.73	2.18	0.09	0.55	0.18	10.36	2.45
町田市		0.63	3.00	8.75	0.13	0.50	0.13	0.38		8.13	2.13
西多摩		0.25	0.75	2.00	0.13	0.38		0.13		3.50	0.88
南多摩			1.56	3.33	0.22	1.22	0.11	0.44	0.11	5.78	1.89
多摩立川	0.14	0.07	1.71	2.50	0.71	1.00		0.29		4.21	0.50
多摩府中	0.30		1.85	1.65	0.40	1.20	0.10	0.55		4.15	1.40
多摩小平	0.13	0.93	2.33	3.20	0.13	1.40	0.20	1.20		6.13	0.40
島しょ			1.00							2.00	
東京都	0.36	0.30	1.64	4.41	0.33	1.01	0.19	0.56	0.03	5.24	0.91

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田								1.00			
中央区		0.33			2.00						
みなと	0.17										
新宿区	0.13		0.08		0.50			0.50			
文京											
台東											
墨田区		0.20	0.13		2.00		2.00	4.00			
江東区		0.11									
品川区		0.13	0.08		2.00						
目黒区		0.25									
大田区		0.08									
世田谷		0.27	0.04			1.00		1.00			
渋谷区					1.00						
中野区					1.00						
杉並	0.09							1.50			
池袋								2.00			
北区											
荒川区					2.00						
板橋区											
練馬区					1.50						
足立		0.08			1.00						
葛飾区		0.25			2.00			2.00			
江戸川											
八王子市		0.18						1.00			
町田市		0.63									
西多摩								3.00			
南多摩											
多摩立川		0.07			0.50						
多摩府中		0.30	0.03		0.33			0.67			
多摩小平		0.13			0.50			0.50			
島しょ											
東京都	0.01	0.11	0.01		0.54	0.08	0.08	0.92			

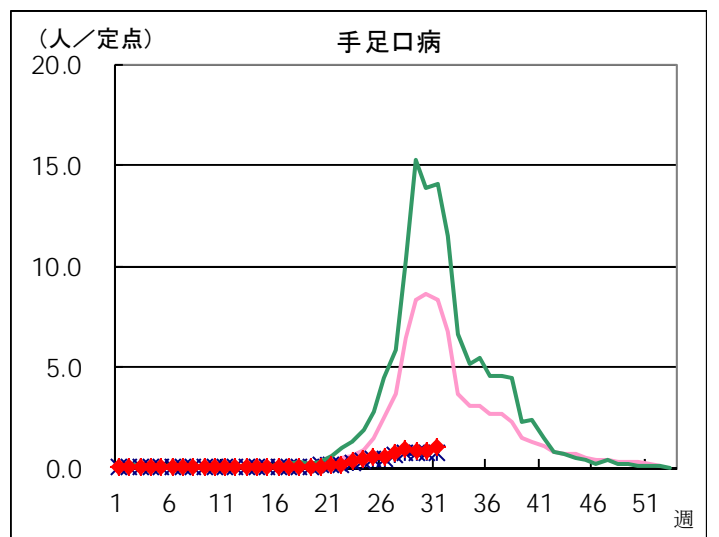
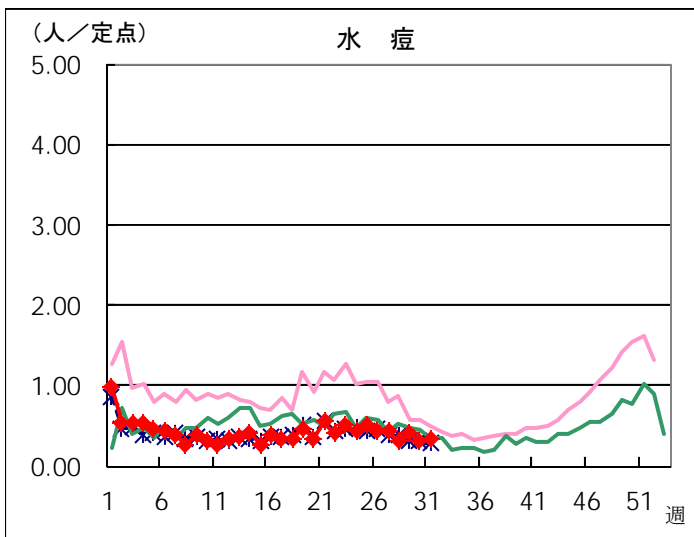
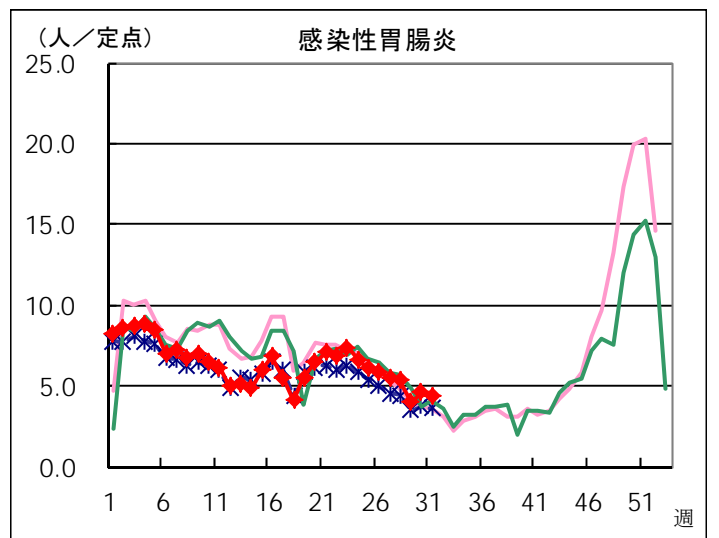
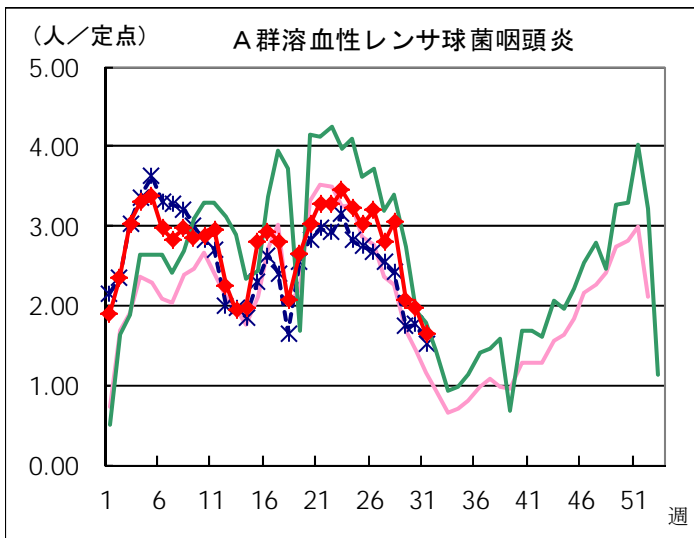
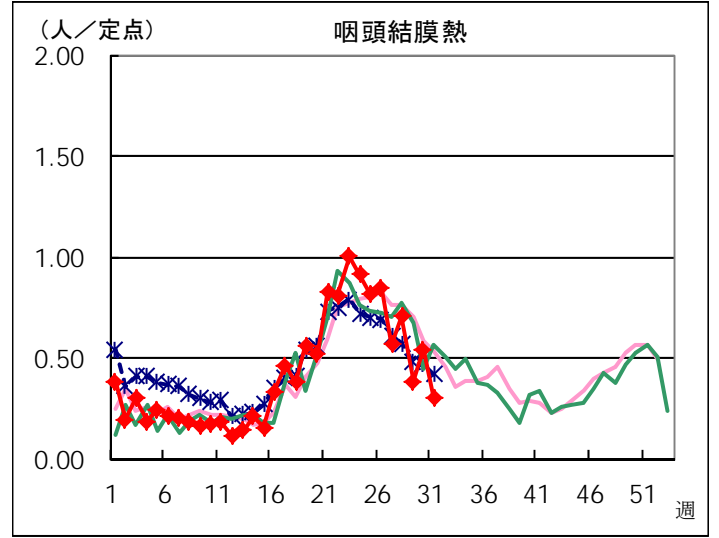
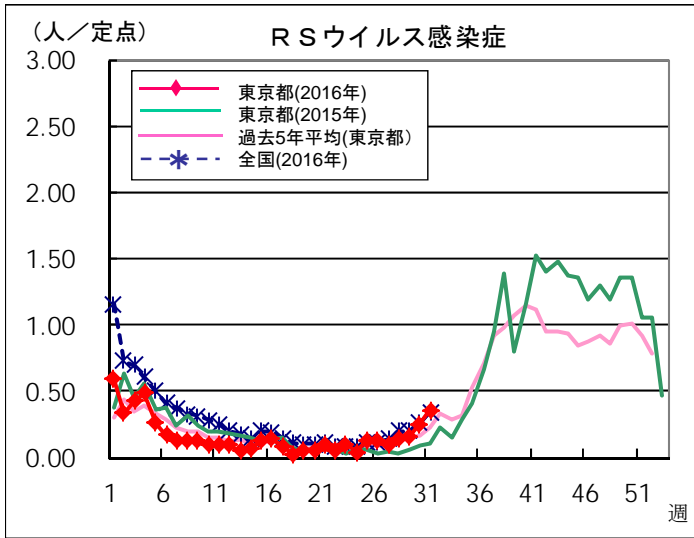
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2016年31週

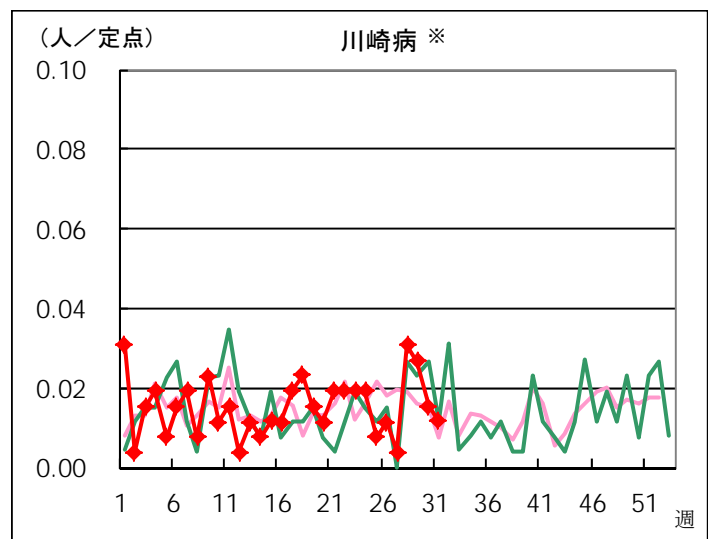
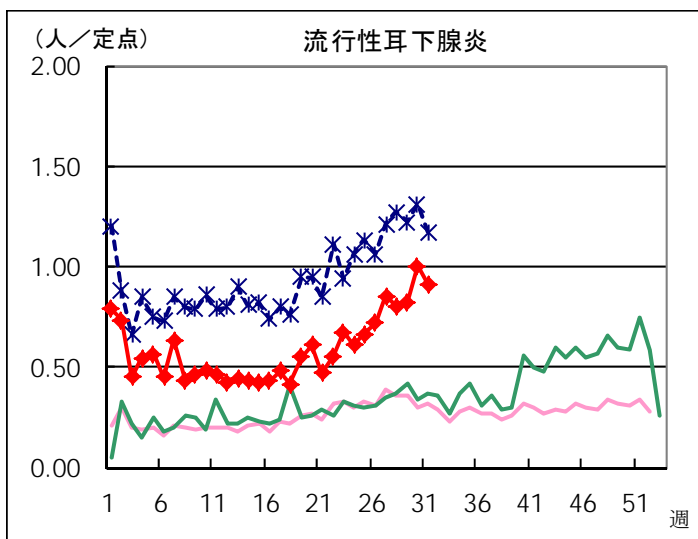
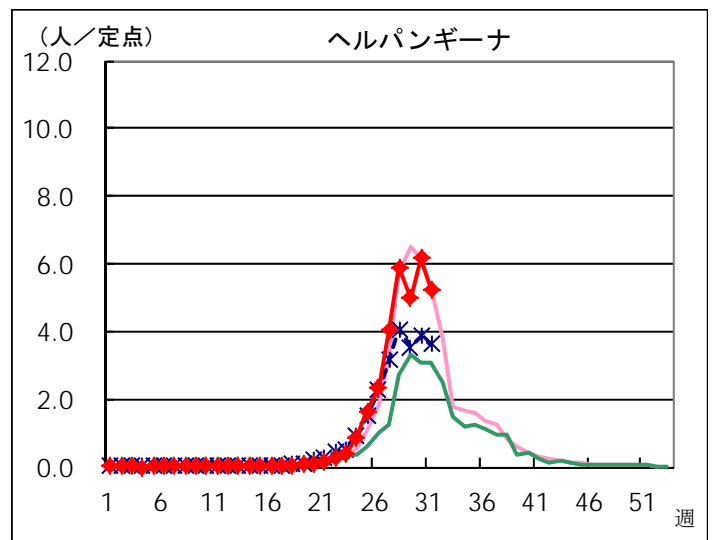
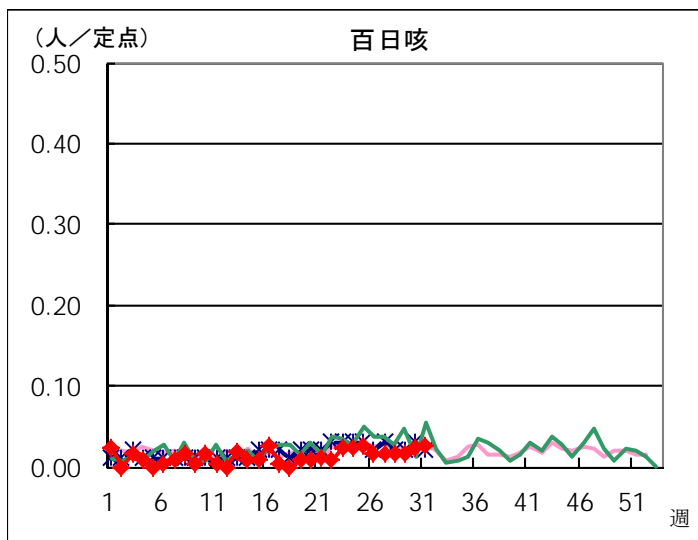
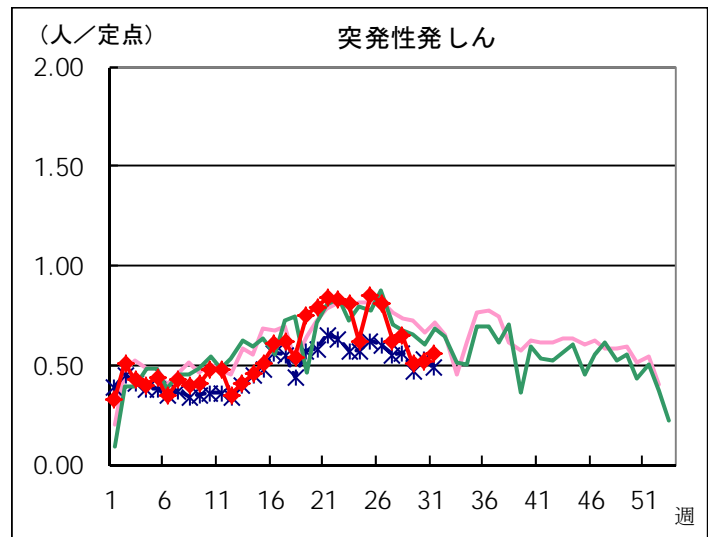
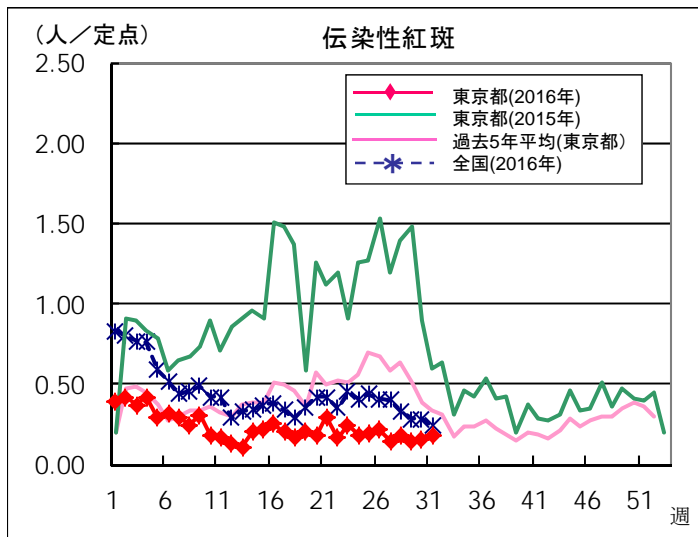
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				2		3				2	
中央区				10		10		3		17	1
みなと	3	9	1	21		2	1	6	1	20	10
新宿区	11	3	20	28	2			1		31	
文京	3	1	6	8	1	4	3			13	4
台東	2		9	20		21	1	4		22	11
墨田区		2	4	10		1				25	8
江東区	3	5	16	119		8		9	1	39	8
品川区	2	1	6	47	2	1		3		18	4
目黒区	5	1	13	35		7	1	5		14	3
大田区	14	7	28	64	2	16	12	10		92	19
世田谷	9	2	47	71	3	14	5	4		73	11
渋谷区			1	9		1		1		3	1
中野区	3	1	6	60	14	8	3	4		70	5
杉並	1		12	31	8	2	4	6		20	
池袋	10		3	6		2	1	1		13	
北区	2			27		8		3		33	2
荒川区	5	3	2	17	6	5		1	1	42	1
板橋区	1		7	16	2	11		8	1	26	8
練馬区		5	47	44	4	7	3	5		72	9
足立	5	5	14	55	2	13	4	8		73	6
葛飾区	1		5	43	5	6	1	8		43	11
江戸川	1	7	22	78	3	10	1	8		96	4
八王子市	2	4	13	86	8	24	1	6	2	114	27
町田市		5	24	70	1	4	1	3		65	17
西多摩		2	6	16	1	3		1		28	7
南多摩			14	30	2	11	1	4	1	52	17
多摩立川	2	1	24	35	10	14		4		59	7
多摩府中	6		37	33	8	24	2	11		83	28
多摩小平	2	14	35	48	2	21	3	18		92	6
島しょ			1							2	
東京都合計	93	78	423	1,139	86	261	48	145	7	1,352	235

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田								2			
中央区		1			2						
みなと	1										
新宿区	1		1		1			1			
文京											
台東											
墨田区		1	1		2		2	4			
江東区		1									
品川区		1	1		2						
目黒区		1									
大田区		1									
世田谷		4	1			2		2			
渋谷区					1						
中野区					1						
杉並	1							3			
池袋								2			
北区											
荒川区					2						
板橋区											
練馬区					3						
足立		1			2						
葛飾区		2			2			2			
江戸川											
八王子市		2						1			
町田市		5									
西多摩								3			
南多摩											
多摩立川		1			1						
多摩府中		6	1		1			2			
多摩小平		2			1			1			
島しょ											
東京都合計	3	29	5		21	2	2	23			

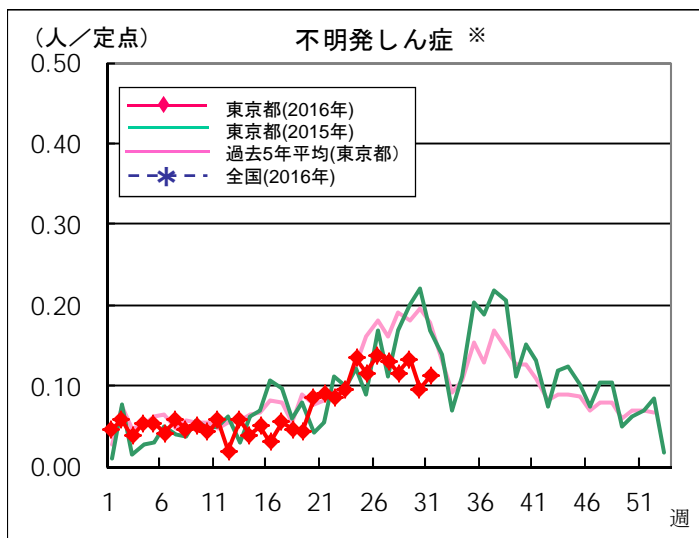
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2016年31週 現在)

◆ 小児科定点



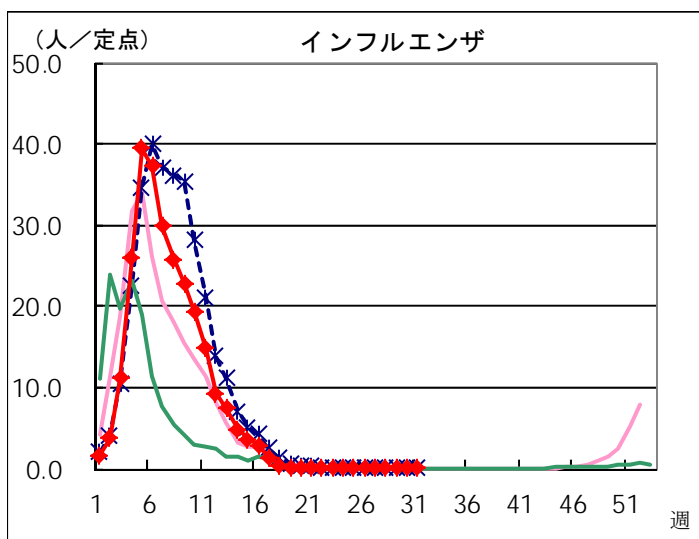


※ 東京都独自対象疾患

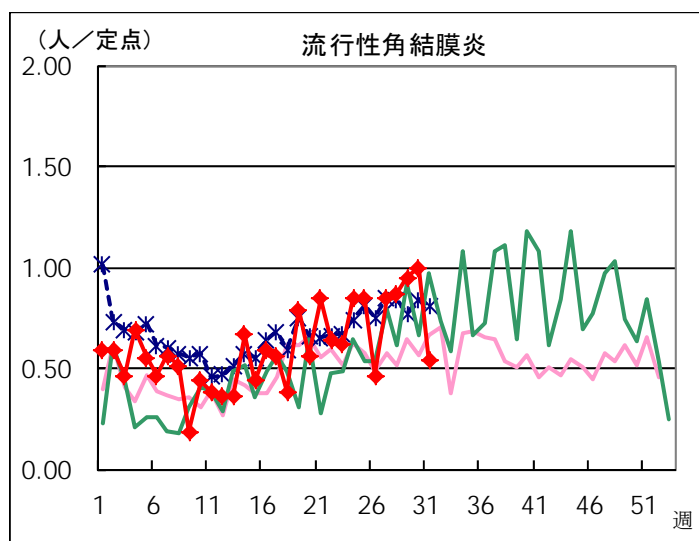
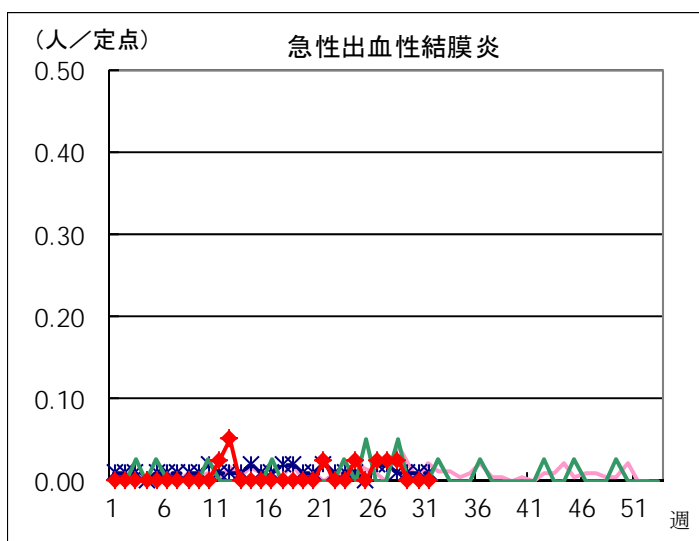


※ 東京都独自対象疾患

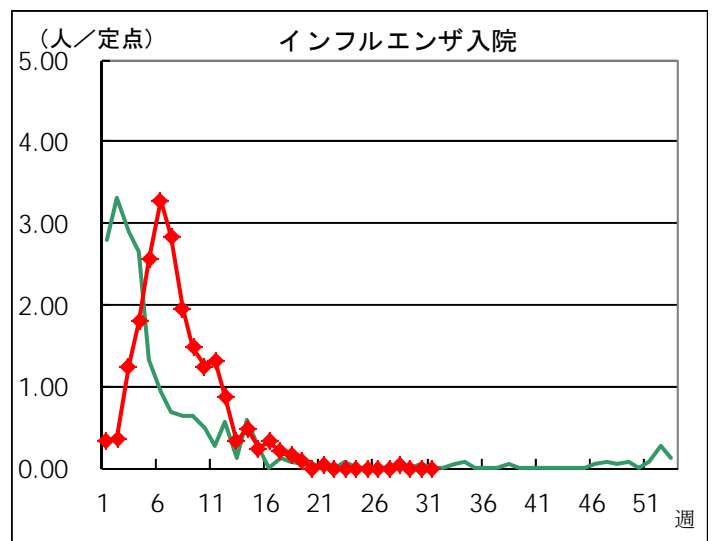
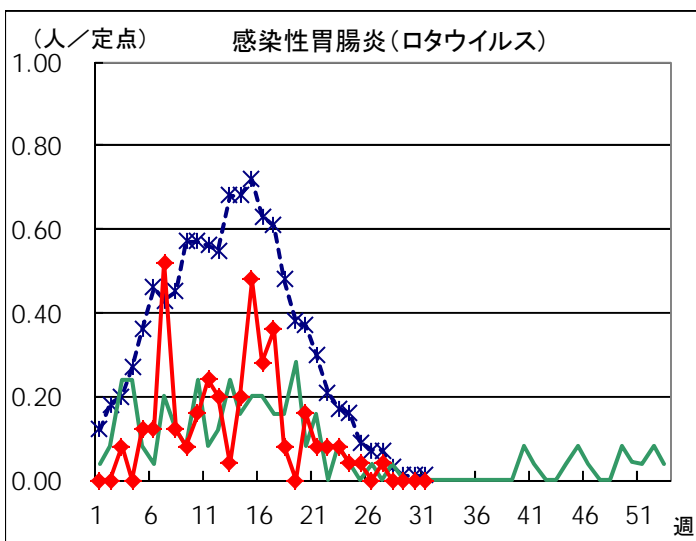
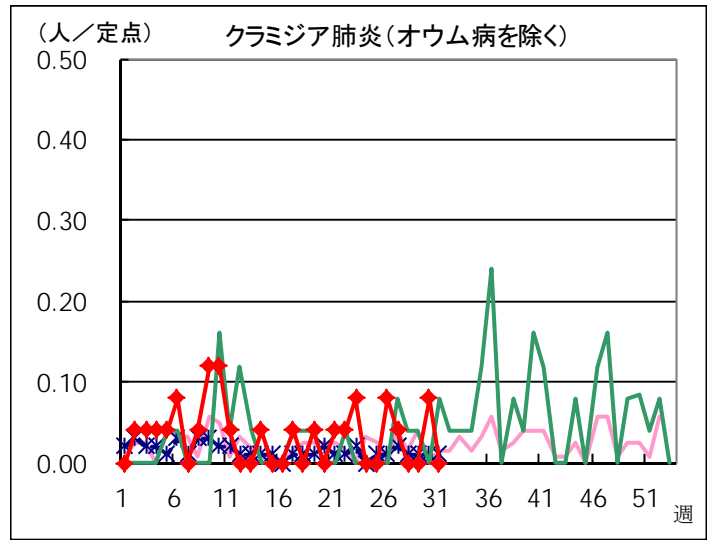
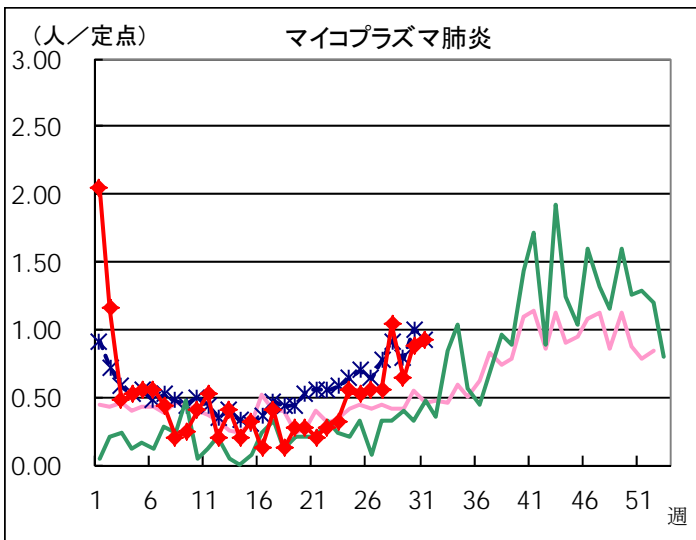
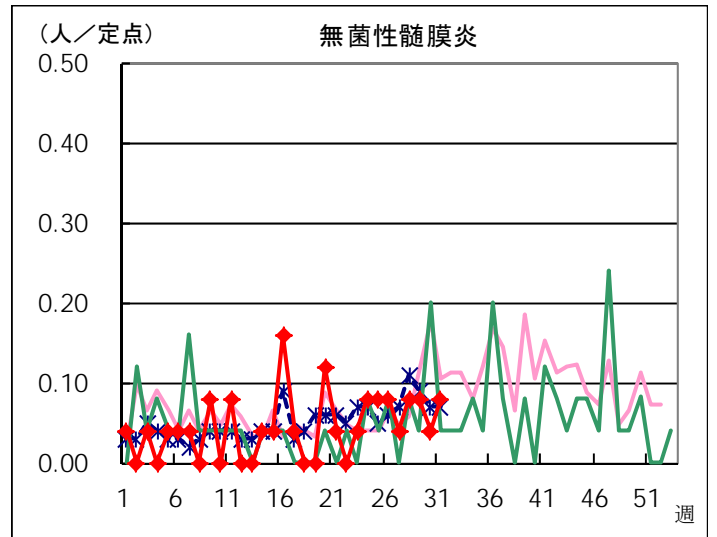
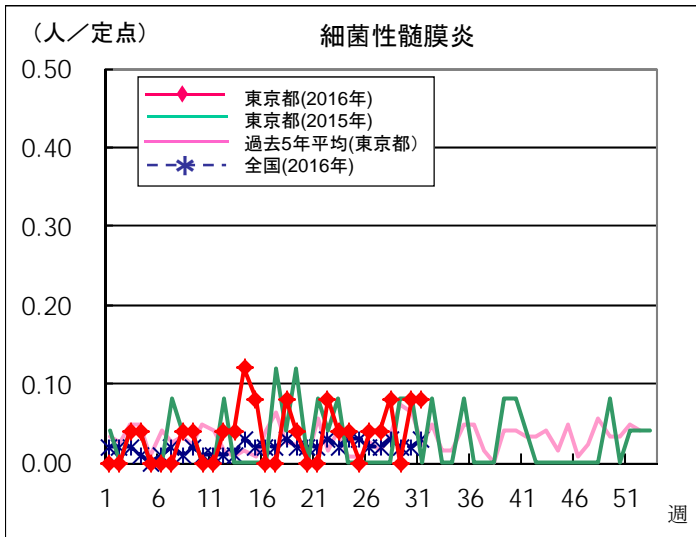
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
6/20	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-4型
7/5	咽頭結膜熱	2	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
7/6	咽頭結膜熱	2	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
7/7	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群4型
7/8	インフルエンザ様疾患	32	咽頭拭い液	エンテロウイルス
7/8	インフルエンザ様疾患	33	咽頭拭い液	エンテロウイルス
7/8	ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群4型
7/8	手足口病	10M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群4型
7/8	無菌性髄膜炎	1M	咽頭拭い液	ヒトパレコウイルス3型
7/11	RSウイルス感染症	9M	咽頭拭い液	RSウイルスB型
7/11	ヘルパンギーナ	5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群5型
7/11	流行性耳下腺炎	7	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
7/11	流行性耳下腺炎	9	咽頭拭い液	ムンプスウイルス
7/12	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群6型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2016年28週				
2015-2016年 シーズン累計*	162		27	180

* 2015-2016年シーズンの開始は第36週(2015年8月31日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2016年							
	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週
アデノウイルス	2	1	4	1	5	1	2	2
コクサッキーウイルスA群	1	1		1	1	1	7	5
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス								2
ライノウイルス	2			1		1	1	
ヒトメタニューモウイルス			1					
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス					1			
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	4	1	2	2			1	
EBウイルス	1		2	2		1		
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	2	2	2	1	5	5		2
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19		1			2	1	2	
RSウイルス								1
ノロウイルス	1	1	2	1				
ロタウイルス			2					
サボウイルス	2		1					
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型		1				1		
インフルエンザウイルスB型	2	1						
インフルエンザウイルスAH1pdm09		1						
その他のウイルス								1
A群溶血性レンサ球菌T-1型		1	2		1	2	2	
A群溶血性レンサ球菌T-3型	3					1		
A群溶血性レンサ球菌T-4型		3		1				1
A群溶血性レンサ球菌T-12型		1			1			
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型		1						
A群溶血性レンサ球菌その他のT型							1	
A群溶血性レンサ球菌T型別不能		1						
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ				1			1	
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2016年21週～2016年28週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	3	21	24	19	2	7	7	9	10	16	25		18	7	23	1	6	7	17	6	
アデノウイルス		11													2		5				
コクサッキーウイルスA群						6				11											
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス																					
エンテロウイルス71																					
その他のエンテロウイルス															2						
ライノウイルス						1								1	2				1		
ヒトメタニューモウイルス	1																				
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス					1																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		1						7					2								
EBウイルス											6										
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス											19										
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)																					
風疹ウイルス																					
ヒトパルボウイルスB19							5						1								
RSウイルス	1																				
ノロウイルス				5																	
ロタウイルス				2																	
サボウイルス				3																	
インフルエンザウイルスAH1亜型																					
インフルエンザウイルスAH3亜型														2							
インフルエンザウイルスB型														3							
インフルエンザウイルスAH1pdm09														1							
その他のウイルス																				1	
A群溶血性レンサ球菌T-1型			8																		
A群溶血性レンサ球菌T-3型			4																		
A群溶血性レンサ球菌T-4型			5																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型			2																		
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1																		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T型別不能			1																		
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					2
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

デング熱の環境対策

日本でデング熱等「人⇒蚊⇒人」のウイルス媒介蚊となりうる主な蚊は「ヒトスジシマ蚊（やぶ蚊）」で、蚊の基本的生態を知る事が対策にもつながる。蚊の活動時期は5月中旬から10月下旬頃まで、吸血は産卵のために雌のみが行い雄は吸血しない。吸血行動は朝方から夕方頃までの日中で、主に屋外で葉の裏側などに潜み（やぶ蚊といわれる由縁）、人が近づくと襲ってくる（待ち伏せ型）。活動範囲は概ね半径100m~150mと狭い範囲だが、吸血のために屋内にも侵入してくる。放置されたゴミ、空き缶やビン、植木鉢の受け皿など、ちょっとした水たまりや雨水ますなどに産卵する。産卵から1週間程度で幼虫(ボウフラ)になり、その後10日程で成虫になる。子供も大人も誰でもできる最も基本的な発生防止対策は、小さな水たまりを1週間以上放置しないで成虫発生を防止する事であり、清掃や環境美化活動などは蚊の発生防止の観点からも大変有効な対策といえる。

さらに、国内感染例が疑われる場合は、2年前の代々木公園のように薬剤散布や立ち入り制限なども想定されるが、患者発症の時期と潜伏期などから推定感染地を絞り、蚊の活動範囲内での住環境や蚊の生息状況などの情報収集を行い、薬剤使用を考慮する場合は、さらに散布場所や散布方法、散布前後の効果検証、周辺への理解協力なども含め計画的に実施することが大切である。東京都健康安全研究センターのホームページでは、「東京都の感染症媒介蚊対策」として患者発生動向・蚊サーベイランス・蚊媒介感染症ハイリスク地点、等の情報提供を行っているので参考にするとよい。

（文責 江戸川保健所長 山川博之）

「参考『デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き』（国立感染症研究所平成27年4月28日）」